評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 悠楽苑		
所在地	周南市中須南字鎌田2553 - 13		
電話番号	0834-89-5100	事業所番号	3591500040
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		

訪問調査日	平成 20 年 3 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 23 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	11 人	常勤	7 人 非常勤 4 人 (常勤換算 9 人)

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り		
	1 階建ての	1	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	30,000 円	敷金	有	50,000 円
保証金	無	円	償却の有無	有/無	
食費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	100 円	
その他の費用	月額	22,500 円			
	内訳	光熱水費、管理費、日用品費、教養娯楽費			

(4) 利用者の概要 (3月18日現在)

利用者数	18 名		男性	5 名	女性	13 名
	要介護 1	4	要介護 4	2		
	要介護 2	5	要介護 5			
	要介護 3	7	要支援 2			
年齢	平均	80 歳	最低	63 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 周南高原病院、神田医院 歯科 さえき歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

開設1年目のホームですが、経験豊富な職員同士の意思疎通が良く取れており、利用者一人ひとりの思いや意向を大切に、できるだけ個別の対応ができるよう努力されています。管理者は地域の民生委員協議会や自治会集会などに出席し、ホームの状況を伝えたりするなど話し合いの場を持たれ、地域住民によるボランティア活動へも参加され、事業所が地域の一員となるよう取り組まれています。地域住民の受け入れもよく、協力的で、あたたかくホームを見守っておられます。

(特徴的な取組等)

管理栄養士による、カロリーや栄養バランスに配慮した食事を三食ともホームで作られています。利用者が重度化した場合の指針を定めており、訪問看護ステーションやかかりつけ医と連携した医療体制が整えられ、全員で方針を共有されています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価はありません。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者、職員共に評価の意義を理解されています。自己評価表を常勤職員に配布し、それぞれに記入してもらい、管理者がまとめたものを全職員で検討した上で作成されました。自己評価を行うことによって、ホームとしての将来的な方向付けができ、職員同士の共通認識が得られたようです。

(運営推進会議の取組状況)

市役所市所長、地区社協会長、民生児童委員代表、地区をよりよくする会会長、ホーム管理者、計画作成担当者の参加で、これまでに2回開催し、ホームの状況報告や、意見交換をされています。散歩コースに良い名所を教えてください、サービスに行かされています。利用者や家族は運営推進会議に参加されていません。

(家族との連携状況)

毎月、利用料請求書と一緒に、利用者の暮らしぶりを記した手紙、行事の写真、金銭管理、職員の異動の報告などを送付されています。家族の訪問が多く、その折に、健康状態や日々の様子を伝えたり、意見や要望を聞いたりされています。遠方の家族や訪問が少ない家族には電話やメールで連携をとられています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、地域の祭りや運動会、敬老会への参加、保育園児や小学生とのふれあいなど、地域の多くの人たちとの交流が盛んです。自治会や民生委員、老人クラブなど、地元の関連機関、団体などの協力が得られています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>開設前の研修をふまえて、管理者と職員で地域密着型サービスとしてのあり方を話し合い作成したが、具体的な言葉として表現していない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の具体的な表現</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を玄関や事務所に掲示し、週1回行っているケア会議で確認し、共有して実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、地域の行事(祭り、初山祭り、産業祭)敬老会、保育園の運動会やクリスマス会、小学生との一日交流をしている。管理者は、自治会集会、民生委員協議会などに出席し、ホームの状況を報告したり、行事の手伝いをするなど、地域の一員として取り組んでいる。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員共に評価の意義を理解している。自己評価表を常勤職員に配布し、それぞれに記入してもらい、管理者がまとめたものを全職員で検討したうえで作成している。ホームの方向付けや職員の共通認識を得ることができている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>市役所支所長、地区社協会長、民生児童委員代表、地区をよりよくする会会長、管理者、計画作成者の参加で、これまでに2回開催し、ホームの状況報告や、意見交換をしている。散歩に良い名所を教えてもらい、サービスに活かしている。家族や利用者は参加していない。</p>	<p>・運営推進会議への利用者や家族の参加 ・2ヶ月ごとの開催</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当部署との連携のほか、市の保健師から介護予防や感染症予防の話、体操などの指導を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、利用料請求書と一緒に、利用者の暮らしぶりを記した手紙、行事の写真、金銭管理、職員の異動の報告など送付している。家族の訪問時、電話やメール等でも健康状態など伝えている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情相談窓口及び担当者、苦情解決責任者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。第三者委員は選任していない。家族の訪問時や電話等で意見や要望を聞いて、その内容を運営に反映させている。	・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	2ユニットで常勤7名、非常勤4名の職員体制で行事の時には勤務時間帯を変更して、人数を確保するなど勤務の調整をしている。夜勤は2ユニットに1人であり、利用者の状態によっては、若干の不安がある。	・夜勤2名体制の検討
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設以来、2名の退職者、法人内での異動があったが、引継ぎ期間へ配慮し、できるだけ利用者へのダメージを少なくするよう努力している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は勤務の一環として提供し、法人内の内部研修において、復命をするほか、月1回のケア会議で報告し、研修資料をコピーして職員に渡したり、働きながらトレーニングしていくよう取り組んでいる。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に管理者が参加し、意見や情報の交換を行なっているが、地域の同業者との交流する機会は少ない。	・市内や圏域の同業者との交流の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事前の面接や見学、日中だけの利用、夜間の利用、体験入居(2晩)など、徐々に馴染めるように支援している。体験入居の時は、職員がゆっくりと対応し、安心感を持ってもらえるよう配慮している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、利用者から学ぶということを大切にしており、調理を一緒に行いながら味付けを教わったり、後片付けや掃除をしながら昔の故事、ことわざを聞くなどして、支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、利用者の会話や行動に気をつけて、思いや意向を把握して、支援経過記録に記録している。夜、眠れない利用者に寄り添い、お茶を飲みながら、ゆっくり話を聞いていると、利用者の希望等の声が出てくる。困難な場合は家族に相談するなどして、本人本意に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスを月に1回開催し、計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に話し合っている。利用者の意見は把握した記録や面会時や電話等で聞いた家族の意見や要望等を参考にしながら介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>月に1回モニタリングをし、3ヶ月ごとに介護計画を見直している。状態に変化があるときなど、必要に応じて見直し、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎、付き添いの支援や帰宅願望の利用者には、ドライブしたり、個人の買い物支援など状況に応じた柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には協力病院に主治医として関わってもらっているが、利用者の病歴に関わる医療機関には適切な情報提供を行いながら、継続受診が出来るように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居の祭に「重度化した場合における対応に係る指針」を示し家族に説明している。看護師、かかりつけ医、協力病院との連携体制も取れている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の尊厳や権利を守るために、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかい、対応について、開設前の研修で徹底して学んでいる。記録等は保管庫に入れ、個人情報が流出しないよう、取り扱いに注意している。プライバシー保護マニュアルを作成している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や入浴時間は日々利用者に合わせた支援をし、一人ひとりの思いや状態、その時々を大切にして、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は3食ともホームで調理し、準備や盛り付け、配膳、後片付けなど利用者と共に行なっている。同じ食事を一緒に食べながら思い出話などをして楽しい時間を過ごしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日13時～16時と決められているが、希望があれば午前、午後、夕方、夜にも対応している。ゆっくりゆったり入浴を楽しめるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	めり絵、編み物、習字、歌、体操、日本舞踊などの楽しみごとや、食事の準備、後片付け、掃除など、一人ひとりの活躍できる場面づくりをしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望や体調に応じて散歩、買い物、ドライブなど外出の支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、研修で学習し、職員全員で理解を深めており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックについては、日頃から気をつけるようにしている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホームが国道に面しており、交通量も多く、安全面から終日、すべての出入口に鍵をかけている。	・鍵をかけない工夫
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書を整備し、記録して、対策を検討し、事故防止に取り組んでいる。事故防止対策については、事前研修で学んでいる。週1回のケア会議において、ヒヤリはっと報告に基づく利用者一人一人に応じた事故防止対策を話し合っている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルがあり、職員全員でマニュアルに沿った対応について確認しているが、日頃からや定期的な訓練はしていない。個人で救急救命法の講習を受講している職員もいる。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回、消防署の協力で避難訓練を行い、自治会集会などで住民や消防団にホームへの協力をお願いしている。日頃から散歩の時に避難場所を確認している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者一人ひとりの「薬手帳」があり、薬の目的や副作用、用法や用量などを一覧表にし、職員も理解している。服薬はその都度手渡して確認している。必要な情報は看護師や主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを実施している。歯ブラシや義歯の清掃、保管についてマニュアルに沿って支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を把握し、管理栄養士によるカロリーや栄養バランスに配慮した食事を提供している。状況により、とろみを付けたり、おかゆや刻み食などの支援もしている。水分量もチェック表に記録している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、うがいや手洗いなど予防を実行している。市の保健師による感染症予防の研修を行なっている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	広いガラス窓から見える外の風景の移り変わりや花壇の花々で季節を感じたり、利用者と職員で食事の準備や後片付けなどしながら、生活感が感じられるように支援している。リビングには天窓があり、明るく清潔で落ち着いた雰囲気があり、観葉植物が置かれ、壁には手づくりのカレンダーや版画を飾るなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に、持ち込むものについては家族とよく話し合い、テレビ、机、衣装ケースなど、利用者の使い慣れたものや好みのものが置かれ、安心して過ごせるよう支援している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム悠楽苑
所在地	山口県周南市中須南2553-13
電話番号	0834-89-5100
開設年月日	平成 19 年 4 月 6 日

【実施ユニットの概要】 (2 月 20 日現在)

ユニットの名称	木			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 5 名	女性 4 名	
	要介護 1	1	要介護 4	0
	要介護 2	2	要介護 5	0
	要介護 3	6	要支援 2	0
年齢構成	平均 79.4 歳	最低 74 歳	最高 93 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価書を1部ずつ職員に配布し、各々が記入して提出してもらいました。その意見をまとめ仕上げました。
評価確定日	平成 20 年 3 月 18 日

【サービスの特徴】

当ホームは昨年4月にオープンしました。職員全員が介護の経験があるというのではなかったため、事前研修において、多方面からの見方が出来るという利点もありました。和気藹々と認知症理解や、認知症ケアを語り学びあい、運営理念や基本理念も一緒に考えつくりました。そこで生まれた運営理念は『自然に恵まれたやすらぎの環境の中で、「ゆっくり、楽しく、一緒に」をモットーに、入居者のペースに合わせ、介護スタッフが充実したサービスを提供します。また、長年 社会に貢献された方々に、礼節を重んじ敬愛の念を持って介護に臨みます。』基本理念は『当グループホームは、家庭的な雰囲気を大切に、利用者の笑顔あふれる穏やかな生活を目指します。』『当グループホームは、利用者のその人らしさを尊重し、家庭の一員となって自立を支援します。』『当グループホームは、利用者の健康に留意し、いつまでも安心して快適な暮らしができるよう共に助け合います。』という3つをかかげました。これからも、初心を忘れず、利用者さんと共にゆっくり、楽しく、一緒に思い出を創っていきたいと思います。

さて、当ホームは周南市と言っても山林に囲まれた寒い所にあります。けれども、地域の方々が、とても優しく、あたたかく協力的です。利用者初め、職員に対しても穏やかに見守り、受け入れて下さり、とても感謝しています。保育園児や小学校児童とのふれあい、地域の方の慰問、お大師祭、揉山奉納、運動会、敬老会、クリスマスなど、地域行事のお誘いを受けたり、地域の名所を知らせて下さったり、利用者が一人でも二人でも希望があれば地域にお連れするように支援しています。出来たばかりで、職員も何人か入れ替わり、まだまだ未熟なホームですが、職員は笑顔と挨拶を忘れずに頑張ってます。いつか、地域に貢献できるようなホームになれますよう宜しくお願いします。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>職員の交代もあるので、開設当初の気持ちを忘れず、始業時に個々人が確認して仕事を始める。</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>会議等々で唱和するなど、再度、理念を共有していきたい。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>ケアカンファ等での意見を大切にする。</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>今後も、いろんな地域の情報を取り入れ、地域の事業所として取り組みたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>今後も続けていきたい。</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>今後も続けていきたい。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>地域の方が、いつでも訪ねて来られやすい雰囲気を作り、お互いの情報の場を設けたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回、初めての外部評価を受けるが、グループホームの方向性を改めて自覚することが出来た。	これを機会により良いグループホームは何か、評価を活かして今後につなげたい。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議をすることで、グループホームでの生活の一部を地域の方々にお知らせする機会にもなっている。一方、地域で取り組んでおられる事や散歩に良い名所などを教えて頂くこともあり、サービスに活かしている。	今後もお互いが話しやすい会議となるよう努める。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	生保の方の受け入れもあり社会課には行き来する機会が多い。又、市の保健師に来苑依頼し、介護保険のしくみや介護予防の講義、「周南しゃっきり体操」のレク導入などサービスの質の向上に取り組んでいる。	今後もいろいろ相談しサービスの質の向上に取り組みたい。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	一人暮らしの方や、身寄りが遠くだったり高齢だったりする方もいらっしゃるので入所契約時に説明はするが、活用支援までにはしていない。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つ。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持つ。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が何でも訴えられるように、職員がゆったりと笑顔で接する雰囲気作りを心掛けている。意見箱を設置したり、意見、不満、苦情が頻繁にある利用者には管理者が相談室で話を納得いくまで伺うように努めている。	訴えない利用者とも定期的に個別に話し合いの機会をつくる。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	金銭管理、職員の異動等の報告等は毎月、利用料請求書と共に送付している。その際に行事での写真と、担当職員が個々の利用者の様子を書いた手紙を一緒に入れている。	行事での個々の写真や職員からの手紙は喜ばれているので、今後も続けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	情報開示の要求があれば応じる。		開示情報の整理と、開示の実務。
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約時に相談や苦情受付窓口の説明をし、掲示している。		第三者委員の選任や市の介護相談員を受け入れる。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎週月曜日にケアカンファを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、可能な限り反映させている。		会議以外でも職員の個別面接等を行い意見や提案を聞く機会を設ける。
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	夜間は2ユニットを夜勤者ひとりで対応しているが、利用者の状態等に応じて宿直者を確保したり、行事のあるときは話し合いにより、職員の人数確保や勤務時間帯変更を行って勤務の調整に努めている。		苑外行事参加においては利用者の安全と安心のためにも職員確保は必要と考え、話し合いや勤務の調整に努めると共に、緊急時に対応出来るよう連絡体制を整備する。
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。利用者への配慮も職員個々人が配慮している。		仕事のしやすい、やりがいのある職場と人間関係を作っていきたい。
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じて育成するための計画をたてるまでに至っていないが、法人内外の研修を受ける機会や、働きながらトレーニングしていくことは進めている。		計画性を持った人材育成を行ってきたい。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置している。		職員一人ひとりの個性を大切にしている。
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ネットワーク作りは出来ていない。		「山口県宅老所・グループホーム連絡会」等に加入し勉強会や同業者との交流の機会を持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		定期的に意識調査や面談の機会を持つ。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		常に向上心が持てる職業環境を実現していく。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		多面的に評価出来るように努める。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		今後も回数を可能な限り増やし、じっくりと話を傾聴できる時間を確保していく。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		今後も回数を可能な限り増やし、じっくりと話を傾聴できる時間を確保していく。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		ネットワークを作り、情報を得ておく。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		今後も一緒に過ごし共感しあえる人間関係を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		今後も、職員と家族が連携して本人を支えていく環境作りをしていきたい。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		今後も、本人と家族の関係が良好になるように、本人の心身状況をお伝えする。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		今後も、友人や知人が気軽に面会できるような環境作りをする。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		今後も、利用者同士が話し合ったり、関わり合いを持てるよう、又、そのきっかけ作りが出来るように支援する。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		今後も、継続して関わりを必要とされる家族には出来る範囲で付き合いを大切にする。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		安全・安楽・安心を基本に本人本意で自己実現出来るように支援していきたい。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		継続して個人ファイルの読み込みや会話から本人の生活歴を把握していきたい。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		ケアカンファレンス等で埋もれていた力等、新たな発見も踏まえて継続して積み上げていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスで質の高い介護計画が作成できるよう努力していきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ADLの状況や特記事項を参考に、見直しが必要な時は、現状に即した新たな計画を作成する。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護評価表を作成して、1ヶ月単位での実績、結果、気づきを記入する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外泊や外出対応が可能な家族には家族対応を依頼し、不可能な利用者には職員での対応を支援するなど、本人の意向を踏まえた柔軟な支援を心掛ける。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	今後も、地域資源を積極的に活用していきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	認知症の理解や関わり方についての相談対応・家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等、利用者のケアに配慮しつつ地域に解放している。	今後も、積極的に開放していきたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	実績はないが、本人や家族の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援は大切だと思う。	必要ならば選択の一つとして支援する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターとの連携も今後、蜜にしていきたい。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今後も協力医院との連携を大切にして、迅速な医療が受けられるように支援していきたい。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		今後も協力医院の医師との関係を大切にしていきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		今後も連携をとり気軽に相談しながら支援をしていく。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		今後も連携をとり気軽に相談しながら支援をしていく。
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		本人の住み替えによるダメージを防ぐため、ケア関係者間での十分な話し合いや情報交換を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>今後も心掛ける。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>大きな声で、ゆっくりと、何度も説明し、じっくり傾聴し、本人の思いや希望を表現できるように働きかける。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、裁縫、編み物、アイロンかけ、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>衣類や持ち物の整理はできてないことが多いので支援していく。買い物は財布を渡し金銭管理ができるよう支援したり、欲しいといわれた物を買うなど力量に応じて支援する。</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一日のタイムスケジュールは、原則設けているが、希望に沿って支援している。</p>	<p>安全・安楽・安心を基本に本人が選択出来るように支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容・美容は本人の望む店に職員と一緒にいったり、家族と一緒にいかれたり、出張理美容を利用したり、その人らしい支援をしている。</p>	<p>選択肢を出来る限り広げ、本人を選んで頂く支援を心掛ける。</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者がメニューを考え一緒に買い物に行くなどの利用者主体の支援を取り入れる。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>健康上、たばこは支援していない。お酒は祭りやお祝い行事の時、楽しめる程度に、その他は一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>心身状態を考慮して対応する。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>日々の日誌などから排泄パターンを把握し、早めに声掛けしてトイレ誘導する。</p>	<p>さりげないトイレ誘導と、失禁後の清潔保持を心掛ける。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	原則午後1時から希望者順に入浴を行っているが、午前中や夜間も希望があれば入浴している。		安全に気をつけ、実現できる工夫を話し合う。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活パターンを把握し、昼夜逆転にならないように支援する。		昼夜逆転等、生活時間を崩さないよう配慮する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人や家族の会話などから生活歴を把握し、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		多方面から生活歴を把握する。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人がお金を持つことの大切さを理解して利用者には、本人に財布を渡し、買い物をする支援をしている。		お金を所持したり、使えるように支援する。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩やドライブに出掛けている。		職員不足という理由で利用者の希望に添えないことに繋げないようにする。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族や知人と共に出かけられる機会を作り支援しているが、個別支援は数名しか実践できなかった。		今後、普段いけない場所への外出支援を増やしたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		今後、年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけるようにしたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解する。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		鍵を掛けないケアの実践がどうすれば出来るか考慮していきたい。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		全職員で連携して取り組む。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		洗剤、刃物等々、危険物の優先順位をつけて対応する。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		マニュアルを作成して対応出来るようにする。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		全ての職員が応急手当や初期対応出来るように訓練を定期的に行う。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		今後もカンファレンスにおいて報告、連絡、相談を継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	積極的とは言えない。	避難訓練等を実施し、啓発活動を行っていく。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	事業所の方から一方的に家族等に説明しているのみなので、話し合いまでは至っていない。	家族との連携を一層図っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個人記録、日誌、口頭での申し送りをして、情報の共有化に努めている。	細かい気付きでも日誌に特記事項で記入し、職員全員が目を通し、情報を共有する。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとりの薬手帳を作って頂いている。又、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について表を作成して、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。必要な情報は医師や看護師に連絡している。	誤薬のないように注意し、利用者の症状の変化を見逃さないように努める。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェックを行い、水分補給や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	継続して取り組む。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管を行っている。	定期的に歯科医受診する。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が一日のカロリー量を計算し、腎臓病食や糖尿病食にも対応したメニューにしている。一人一人の状態に応じて、お粥やおむすび、刻みにするなどしている。水分もきちんと採るよう支援しチェック表に記している。	今後も継続する。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、市の保健師に来院して頂き、感染症予防の講義をうける機会を持った。	職員一人ひとりが認識し、マニュアル等にも定期的に目を通す。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	消毒剤等で、清潔、衛生を保持している。食材は毎日、業者から配達され、月末に調味料や食材の在庫チェックと冷蔵庫の掃除をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	自治会で防犯灯を付け、近隣の人等にとっても感謝されている。玄関周りには利用者が近所から頂いた苗を植えたり、水遣りをする光景があり、親しみやすく、安心して出入り出来るように工夫をしている。	安心して出入りできるような雰囲気作りをしていきたい。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	外の景色と、花壇などで季節感を感じて頂いている。共用の空間では不快な音や光はないように配慮している。ハード面では食堂に天窗を付けることによって明るく、心地良く、能動的に過ごせるように工夫されている。	苑内においても季節感のある工夫を試みる。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の定位置があり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごされたり、自室で本を読まれたりテレビを見たり、自分で居場所を工夫されている。	状況により、職員がさりげない誘導をする。
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるよう工夫している。	バリアフリーで要所に手すりやコールマットを設置し安全かつ出来るだけ自立した生活が出来るようくふうしている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人の状態が変化した場合は、カンファレンス等において混乱や失敗を引き起こす原因は何かを話し合い、自立出来るように工夫している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にプランターを植え、ベンチを置いて利用者がゆっくり楽しめるように配慮しているが、寒い日が多く活かしきれていない。	建物の外周や空間の活用を話し合い、利用者が楽しんだり、活動できるように活かしていく。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム悠楽苑
所在地	山口県周南市中須南2553-13
電話番号	0834-89-5100
開設年月日	平成 19 年 4 月 6 日

【実施ユニットの概要】 (2 月 20 日現在)

ユニットの名称	花			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	3	要介護 4	1
	要介護 2	3	要介護 5	0
	要介護 3	2	要支援 2	0
年齢構成	平均 81.9 歳	最低 68 歳	最高 92 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価書を1部ずつ職員に配布し、各々が記入して提出してもらいました。その意見をまとめ仕上げました。
評価確定日	平成 20 年 3 月 18 日

【サービスの特徴】

当ホームは昨年4月にオープンしました。職員全員が介護の経験があるというのではなかったのですが、事前研修において、多方面からの見方が出来るという利点もありました。和気藹々と認知症理解や、認知症ケアを語り学びあい、運営理念や基本理念も一緒に考えつくりました。そこで生まれた運営理念は『自然に恵まれたやすらぎの環境の中で、「ゆっくり、楽しく、一緒に」をモットーに、入居者のペースに合わせ、介護スタッフが充実したサービスを提供します。また、長年 社会に貢献された方々に、礼節を重んじ敬愛の念を持って介護に臨みます。』基本理念は『当グループホームは、家庭的な雰囲気大切に、利用者の笑顔あふれる穏やかな生活を目指します。』『当グループホームは、利用者のその人らしさを尊重し、家庭の一員となって自立を支援します。』『当グループホームは、利用者の健康に留意し、いつまでも安心して快適な暮らしができるよう共に助け合います。』という3つをかかげました。これからも、初心を忘れず、利用者さんと共にゆっくり、楽しく、一緒に思い出を創っていきたいと思います。

さて、当ホームは周南市と言っても山林に囲まれた寒い所にあります。けれども、地域の方々、とても優しく、あたたかく協力的です。利用者初め、職員に対しても穏やかに見守り、受け入れて下さり、とても感謝しています。保育園児や小学校児童とのふれあい、地域の方の慰問、お大師祭、揉山奉納、運動会、敬老会、クリスマスなど、地域行事のお誘いを受けたり、地域の名所を知らせて下さったり、利用者が一人でも二人でも希望があれば地域にお連れするように支援しています。出来たばかりで、職員も何人か入れ替わり、まだまだ未熟なホームですが、職員は笑顔と挨拶を忘れずに頑張ってます。いつか、地域に貢献できるようなホームになれますよう宜しくお願いします。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		職員の交代もあるので、開設当初の気持ちを忘れず、始業時に個々人が確認して仕事を始める。
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		会議等々で唱和するなど、再度、理念を共有していきたい。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		ケアカンファ等での意見を大切にする。
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		今後も、いろんな地域の情報を取り入れ、地域の事業所として取り組みたい。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		今後も続けていきたい。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		今後も続けていきたい。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		地域の方が、いつでも訪ねて来られやすい雰囲気を作り、お互いの情報の場を設けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回、初めての外部評価を受けるが、グループホームの方向性を改めて自覚することが出来た。	これを機会により良いグループホームは何か、評価を活かして今後につなげたい。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議をすることで、グループホームでの生活の一部を地域の方々にお知らせする機会にもなっている。一方、地域で取り組んでおられる事や散歩に良い名所などを教えて頂くこともあり、サービスに活かしている。	今後もお互いが話しやすい会議となるよう努める。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	生保の方の受け入れもあり社会課には行き来する機会が多い。又、市の保健師に来苑依頼し、介護保険のしくみや介護予防の講義、「周南しゃっきり体操」のレク導入などサービスの質の向上に取り組んでいる。	今後もいろいろ相談しサービスの質の向上に取り組みたい。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	一人暮らしの方や、身寄りが遠くだったり高齢だったりする方もいらっしゃるので入所契約時に説明はするが、活用支援までにはいっていない。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つ。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持つ。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が何でも訴えられるように、職員がゆったりと笑顔で接する雰囲気作りを心掛けている。意見箱を設置したり、意見、不満、苦情が頻繁にある利用者には管理者が相談室で話を納得いくまで伺うように努めている。	訴えない利用者とも定期的に個別に話し合いの機会をつくる。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	金銭管理、職員の異動等の報告等は毎月、利用料請求書と共に送付している。その際に行事での写真と、担当職員が個々の利用者の様子を書いた手紙を一緒に入れている。	行事での個々の写真や職員からの手紙は喜ばれているので、今後も続けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	情報開示の要求があれば応じる。		開示情報の整理と、開示の実務。
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約時に相談や苦情受付窓口の説明をし、掲示している。		第三者委員の選任や市の介護相談員を受け入れる。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎週月曜日にケアカンファを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、可能な限り反映させている。		会議以外でも職員の個別面接等を行い意見や提案を聞く機会を設ける。
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	夜間は2ユニットを夜勤者ひとりで対応しているが、利用者の状態等に応じて宿直者を確保したり、行事のあるときは話し合いにより、職員の人数確保や勤務時間帯変更を行って勤務の調整に努めている。		苑外行事参加においては利用者の安全と安心のためにも職員確保は必要と考え、話し合いや勤務の調整に努めると共に、緊急時に対応出来るよう連絡体制を整備する。
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。利用者への配慮も職員個々人が配慮している。		仕事のしやすい、やりがいのある職場と人間関係を作っていきたい。
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じて育成するための計画をたてるまでに至っていないが、法人内外の研修を受ける機会や、働きながらトレーニングしていくことは進めている。		計画性を持った人材育成を行ってきたい。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置している。		職員一人ひとりの個性を大切にしている。
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ネットワーク作りは出来ていない。		「山口県宅老所・グループホーム連絡会」等に加入し勉強会や同業者との交流の機会を持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		定期的に意識調査や面談の機会を持つ。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		常に向上心が持てる職業環境を実現していく。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		多面的に評価出来るように努める。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		今後も回数を可能な限り増やし、じっくりと話を傾聴できる時間を確保していく。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		今後も回数を可能な限り増やし、じっくりと話を傾聴できる時間を確保していく。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		ネットワークを作り、情報を得ておく。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		今後も一緒に過ごし共感しあえる人間関係を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		今後も、職員と家族が連携して本人を支えていく環境作りをしていきたい。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		今後も、本人と家族の関係が良好になるように、本人の心身状況をお伝えする。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		今後も、友人や知人が気軽に面会できるような環境作りをする。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		今後も、利用者同士が話し合ったり、関わり合いを持てるよう、又、そのきっかけ作りが出来るように支援する。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		今後も、継続して関わりを必要とされる家族には出来る範囲で付き合いを大切にする。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		安全・安楽・安心を基本に本人本意で自己実現出来るように支援していきたい。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		継続して個人ファイルの読み込みや会話から本人の生活歴を把握していきたい。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		ケアカンファレンス等で埋もれていた力等、新たな発見も踏まえて継続して積み上げていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスで質の高い介護計画が作成できるよう努力していきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ADLの状況や特記事項を参考に、見直しが必要な時は、現状に即した新たな計画を作成する。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護評価表を作成して、1ヶ月単位での実績、結果、気づきを記入する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外泊や外出対応が可能な家族には家族対応を依頼し、不可能な利用者には職員での対応を支援するなど、本人の意向を踏まえた柔軟な支援を心掛ける。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	今後も、地域資源を積極的に活用していきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	認知症の理解や関わり方についての相談対応・家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等、利用者のケアに配慮しつつ地域に解放している。	今後も、積極的に開放していきたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	実績はないが、本人や家族の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援は大切だと思う。	必要ならば選択の一つとして支援する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターとの連携も今後、蜜にしていきたい。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今後も協力医院との連携を大切にして、迅速な医療が受けられるように支援していきたい。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		今後も協力医院の医師との関係を大切にしていきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		今後も連携をとり気軽に相談しながら支援をしていく。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		今後も連携をとり気軽に相談しながら支援をしていく。
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		本人の住み替えによるダメージを防ぐため、ケア関係者間での十分な話し合いや情報交換を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>今後も心掛ける。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>大きな声で、ゆっくりと、何度も説明し、じっくり傾聴し、本人の思いや希望を表現できるように働きかける。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、裁縫、編み物、アイロンかけ、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>衣類や持ち物の整理はできてないことが多いので支援していく。買い物は財布を渡し金銭管理ができるよう支援したり、欲しいといわれた物を買うなど力量に応じて支援する。</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一日のタイムスケジュールは、原則設けているが、希望に沿って支援している。</p>	<p>安全・安楽・安心を基本に本人が選択出来るように支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容・美容は本人の望む店に職員と一緒にいったり、家族と一緒にいかれたり、出張理美容を利用したり、その人らしい支援をしている。</p>	<p>選択肢を出来る限り広げ、本人を選んで頂く支援を心掛ける。</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者がメニューを考え一緒に買い物に行くなどの利用者主体の支援を取り入れる。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>健康上、たばこは支援していない。お酒は祭りやお祝い行事の時、楽しめる程度に、その他は一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>心身状態を考慮して対応する。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>日々の日誌などから排泄パターンを把握し、早めに声掛けしてトイレ誘導する。</p>	<p>さりげないトイレ誘導と、失禁後の清潔保持を心掛ける。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	原則午後1時から希望者順に入浴を行っているが、午前中や夜間も希望があれば入浴している。		安全に気をつけ、実現できる工夫を話し合う。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活パターンを把握し、昼夜逆転にならないように支援する。		昼夜逆転等、生活時間を崩さないよう配慮する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人や家族の会話などから生活歴を把握し、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		多方面から生活歴を把握する。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人がお金を持つことの大切さを理解して利用者には、本人に財布を渡し、買い物をする支援をしている。		お金を所持したり、使えるように支援する。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩やドライブに出掛けている。		職員不足という理由で利用者の希望に添えないことに繋げないようにする。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族や知人と共に出かけられる機会を作り支援しているが、個別支援は数名しか実践できなかった。		今後、普段いけない場所への外出支援を増やしたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		今後、年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけるようにしたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解する。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		鍵を掛けないケアの実践がどうすれば出来るか考慮していきたい。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		全職員で連携して取り組む。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		洗剤、刃物等々、危険物の優先順位をつけて対応する。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		マニュアルを作成して対応出来るようにする。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		全ての職員が応急手当や初期対応出来るように訓練を定期的に行う。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		今後もカンファレンスにおいて報告、連絡、相談を継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	積極的とは言えない。	避難訓練等を実施し、啓発活動を行っていく。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	事業所の方から一方的に家族等に説明しているのみなので、話し合いまでは至っていない。	家族との連携を一層図っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個人記録、日誌、口頭での申し送りをして、情報の共有化に努めている。	細かい気付きでも日誌に特記事項で記入し、職員全員が目を通し、情報を共有する。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとりの薬手帳を作って頂いている。又、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について表を作成して、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。必要な情報は医師や看護師に連絡している。	誤薬のないように注意し、利用者の症状の変化を見逃さないように努める。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェックを行い、水分補給や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	継続して取り組む。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管を行っている。	定期的に歯科医受診する。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が一日のカロリー量を計算し、腎臓病食や糖尿病食にも対応したメニューにしている。一人一人の状態に応じて、お粥やおむすび、刻みにするなどしている。水分もきちんと採るよう支援しチェック表に記している。	今後も継続する。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、市の保健師に来院して頂き、感染症予防の講義をうける機会を持った。	職員一人ひとりが認識し、マニュアル等にも定期的に目を通す。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	消毒剤等で、清潔、衛生を保持している。食材は毎日、業者から配達され、月末に調味料や食材の在庫チェックと冷蔵庫の掃除をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	自治会で防犯灯を付け、近隣の人等にとっても感謝されている。玄関周りには利用者が近所から頂いた苗を植えたり、水遣りをする光景があり、親しみやすく、安心して出入り出来るように工夫をしている。	安心して出入りできるような雰囲気作りをしていきたい。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	外の景色と、花壇などで季節感を感じて頂いている。共用の空間では不快な音や光はないように配慮している。ハード面では食堂に天窗を付けることによって明るく、心地良く、能動的に過ごせるように工夫されている。	苑内においても季節感のある工夫を試みる。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の定位置があり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごされたり、自室で本を読まれたりテレビを見たり、自分で居場所を工夫されている。	状況により、職員がさりげない誘導をする。
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるよう工夫している。	バリアフリーで要所に手すりやコールマットを設置し安全かつ出来るだけ自立した生活が出来るようくふうしている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人の状態が変化した場合は、カンファレンス等において混乱や失敗を引き起こす原因は何かを話し合い、自立出来るように工夫している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にプランターを植え、ベンチを置いて利用者がゆっくり楽しめるように配慮しているが、寒い日が多く活かしきれていない。	建物の外周や空間の活用を話し合い、利用者が楽しんだり、活動できるように活かしていく。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない